

「そうまプロジェクト」に続く第二弾！

「“そうま復興米”をみんなで食べよう！プロジェクト」

3.11 より 3 年 8 ヶ月が経過しました。2011 年 4 月に立ち上がった「東京農大東日本支援プロジェクト」では、福島県相馬地域を中心に農業復興のための活動を地元の皆さんと共に続けてきました。土壌肥料グループでは、2011 年 5 月より大津波により被災した相馬市和田地区でイチゴハウス、相馬市岩子地区では水田での営農再開を目指しました。

大津波により農地表面には厚さ 5～10cm の津波土砂が堆積し、その中には大量の塩分が含まれていました。2011 年 6 月に農水省から出された「除塩マニュアル」では、「津波土砂を除去することを基本とする。」でしたが、私達は津波土砂の性質を十分に調べた上で、元の土壌と混層して雨にあてるという全く新たな除塩法を採用しました。それが功を奏して短期間で除塩を達成しましたが、津波土砂中に少量含まれるパイライトというイオウ化合物の影響で土壌が酸性化しました。実は、それも想定範囲内でした。私達は以前から土壌酸性を改良する研究を行っていたので、迷うことなく「転炉スラグ」を施用してその問題を克服しました。このような一連の除塩方法を、今では「そうま方式」あるいは「東京農大方式」と呼ばれています。

和田地区のイチゴハウスでは 2011 年秋から野菜栽培を開始し、2012 年 9 月にはイチゴ栽培を再開しました。また、岩子地区では 2012 年 5 月に三枚の水田(1.7ha)で水稲栽培を再開し、24 年産「そうま復興米」10 トンを収穫しました。

しかし、1.7ha の復興水田は広範に津波被害を被った水田のほんの 1 点に過ぎません。そこで、相馬市の被災農地復興を「点から面に広げよう！」と 2013 年 3 月に「そうまプロジェクト」を立ち上げました。構成メンバーは、相馬市・JA そうま・東京農業大学と岩子の農家の皆さんで、新日鐵住金(株)より大量の転炉スラグの無償支援を受けて、50ha の水田復興を果たしました。

2014 年には、復興予算による転炉スラグの購入が認められ、約 200ha の津波被災水田で「そうま方式」による復興と水稲作付けが行われました。この秋には、約 1,000 トンの 26 年産「そうま復興米」が収穫されました。私達はこの間、復興水田の土壌診断調査や水稲の生育状況を調べてきました。今年の水稲の生育も順調でした。また、水稲の放射能についても調査してきました。相馬市では 7 月中下旬に幼穂形成期を迎えましたが、この時期に水稲中の放射能レベルが最も高まります。そこで、その時期の水稲茎葉を採取して放射能を測定しましたが、N.D.(検出限界 10Bq/kg)でした。その後、秋に収穫した玄米の福島県による全袋を対象とする放射能検査では、全てパスしました。さらに、それらの一部を、東京農大においてゲルマニウム半導体検出器でより精密な放射能測定(検出限界 2Bq/kg)検査でも N.D.(検出されず)でした。

このように、相馬市の農業復興は着実に進展していますが、相馬市で作った農産物を相馬市民や関係者が先ず食べなければ、「相馬農業の真の復興」とはいえません。

そこで、この度「そうまプロジェクト」に続く第二弾として「“そうま復興米”をみんなで食べようプロジェクト」を立ち上げることになりました。



写真 1 復興 2 年目の水田(相馬市岩子 2014 年 6 月)

「“そうま復興米”をみんなで食べよう！プロジェクト」

構成メンバー:相馬市・相馬市民・JA そうま・東京農業大学

その 1:相馬市内の小中学校(小学校 10 校:児童 1,993 名、中学校 5 校:生徒 1,079 名)15 校の児童生徒の保護者 3,072 名および教職員 382 名、合計 3,454 名の皆さんに、26 年産「そうま復興米」新米1kg 袋を贈呈する。

役割分担

相馬市民(農家):「そうま復興米」を収穫

相馬市役所:贈呈する「そうま復興米」の袋に貼るラベルデザインの募集と選定。

ラベルデザイン、相馬市内小中学校児童・生徒に募集中、9 月に募集を〆切。

その中から、市長賞(1 点)、教育長賞(2 点)、優良賞(5 点)を選考し、表彰・記念品贈呈。

市長賞に選ばれたラベルデザインを採用する。(決定作品を別紙に記載)

JA そうま :26 年産「そうま復興米」の収集・保管および袋詰め・配送

東京農業大学:JA そうまより袋詰め「そうま復興米」を買い上げ、各学校をとおして児童・生徒の家庭および教職員に贈呈する。

その 2:東京農業大学での「そうま復興米」の販売促進

11 月の収穫祭や各種イベントでの宣伝販売(10 月 31 日～11 月 2 日に 1kg 袋を 1,000 袋完売)

入学式での新入生への入学記念品として「そうま復興米」を贈呈(東京農業大学教育後援会)

その 3:「そうまプロジェクト」に協力頂いた鉄鋼メーカー・肥料メーカーなどに、本プロジェクトへの参画を呼びかける。社員食堂での「そうま復興米」の利用や社員の購入を斡旋する。

★ 問い合わせ窓口

※ 相馬市役所:相馬市 教育委員会学校教育課(志賀):0244-37-2184

産業部農林水産課(伊東):0244-37-2146

※ 東京農業大学:応用生物科学部生物応用化学科生産環境化学研究室(後藤):03-5477-2310



写真 2 復興初年の水田(相馬市日下石、2014 年 9 月)



東京農業大学東日本支援プロジェクト



3年目を迎えた「そうま復興米」

2011年3月11日の東日本大震災に伴う大津波で、福島県相馬市では約1,000haの農地が塩害による甚大な被害を受けました。東京農業大学東日本支援プロジェクトでは、2011年5月より復興支援活動を開始しました。

★2012年秋には、1.7haの復興水田で初めての「そうま復興米」が穫れました。



2011年5月 被災後の岩子水田



2011年9月 がれき除去



2012年9月 聞こえる復興の足音

★2013年秋には、40haの復興水田で2年目の「そうま復興米」が穫れました。



2013年5月 転炉スラグ施用



2013年5月 一斉に田植え



2013年9月 復興2年目の収穫

★2014年秋には、復興水田が約200haに拡がり、「そうま復興米」も3年目を迎えました。



2013年10月 復田前のがれき収集



2014年7月 広大な青田



2014年9月 復興3年目の収穫

★ 安全・安心・おいしい『そうま復興米』 ★

- ※ 相馬方式(東京農大方式)による除塩技術で復興した福島県相馬市内の水田で、2014年9月に収穫したお米です。
- ※ 福島県による放射能検査はもちろんのこと、東京農業大学でのゲルマニウム検出器による詳しい検査(試験)にも合格した「合格米」です。

^{134}Cs 検出されず(検出限界:約1Bq/kg) ^{137}Cs 検出されず(検出限界:約1Bq/kg)

- ★ 「そうま復興米」は、東京農業大学、福島県相馬市、JAそうまによる共同企画米です。
問い合わせ・連絡先：東京農業大学(電話:03-5477-2310)